

公表

事業所における自己評価結果

| 事業所名 | | 公表日 | | | | |
|---------------|----|--|-----|---------|--|--|
| チャイルドサポートうらそえ | | 令和 8年 4月 1日 | | | | |
| | | チェック項目 | | 工夫している点 | | 課題や改善すべき点 |
| | | はい | いいえ | はい | いいえ | |
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 9 | | その日利用する子の希望で、部屋を変更したり適宜対応している。 | 行っていくようにするがスタッフが利用児の対応で困る事があるので時々足りない時もある |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。 | 9 | | マンツーマンの子に対しても対応はできているので人数は多く感じる | グループを分ける事で利用児のレベルになると難しくなるので上手くスタッフが対応できるように関わりの勉強会が必要 |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 7 | 2 | 車椅子の子がいない為、バリアフリーの環境はない。 | 目からの刺激になるものがあればいいと思うので工夫が必要。 |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 7 | 2 | 毎日掃除をして環境設備をしている。 | 子どもたちが片付けができるような絵を張りながら工夫はしているが、はがされる事で手直しまでに時間がかかってしまっているため気づけて改善できるように行動をしていく。 |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 8 | 1 | 部屋数は沢山はないが時と場合によって設けている。 | 帰ってくる時間がバラバラなのでその時に部屋を使い分けながら活動を行ったりしている。 |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | 9 | | ミーティングなどで情報共有や対策を行っている。 | 振り返りの時間に追われたりしているのでミーティングの内容を変えながらスムーズにスタッフ全員が参画できるような場になるようにしていく。 |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 9 | | 評価公表で次年度の取り組みであったり、発信のあり方を色々試している。 | 直ぐに対応できるようにその都度、確認や共有は必要なので面談の機会を設けるようにしていく。 |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 8 | 1 | 定期的に面談をしながら改善に繋げている。 | 共有まではするが継続まで出来ていないので定着できるような方法が必要。 |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 5 | 4 | 外部講師が来て沢山の意見をもらったりして評価はもらっている。その時にはおこなえている。 | その日にいたスタッフは把握は出来るが休んでいたスタッフへの周知までは確実ではないので対応したスタッフが最後まで責任を持って伝えていくようにする。 |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 9 | | 研修の参加や月 1 回他事業所と勉強会を設けている。 | その日の出勤スタッフは参加は出来るが当日休みスタッフまでの配慮が必要（別日や録画を設けるなど） |
| 適切な支援の提 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 9 | | 毎月発行して保護者に配布している。 | プログラムの作成は出来ているが内容までの周知や工夫など、少しの配慮が必要なのでブログなどで沢山アップできるようにしていく。 |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | 8 | 1 | ミーティングなどで児の課題について話し合いをして共有して計画表にも反映されている。 | 今後も継続をしスタッフの入れ替わりをしながら会議にも参加してもらいニーズに合わせられるように計画を立てていく。 |
| | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 9 | | 保護者と会議をする前にはスタッフ間で課題やできたことの話をして会議後には共有をして毎日の日々の支援に行っている。 | 日々、関りが変わってくるので毎日継続しながら話をしてスタッフも利用児も困らずに支援ができるようにしていく。 |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 9 | | 計画にあった支援を行うように努力はできているが日々、違うので戸惑う事がある。 | 成長と共に関わる者が違って来たり、体調と共に違って来たりするので目標を掲げながら楽しく計画に沿えるようにしている |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 8 | 1 | 多職種がいる中でインフォーマルなアセスメント中心に誰もが分かりやすい形で確認されている。 | 毎日の活動の中であったり、ミーティングを活用しながら確認をしているが全スタッフではないので全員が同じ認識になるように改善をしていく。 |
| | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 9 | | 確認をしながら設定をしている。 | 地域支援・地域連携のねらいが提供できていない事もあるので再度確認をしながら関係機関とも相談をしながら内容を設定していくようにしていく。 |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 7 | 2 | 毎月担当にして作成している。 | 今後はチームで話合っていきたい。チェックをしながら児童に合っているかの話し合いをする必要がある。 |
| | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 9 | | 日々、様々な活動を考える事ができている。各担当が順番に回ってきている為、偏る事はない。 | 固定化しないように工夫しながら毎日の活動を全スタッフでローテーションしながら作成しているので今後も継続していく。 |

| | | | | | | |
|--------------|----|--|---|---|---|--|
| 供 | 19 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | 9 | | 子どものできる事に目を向けて活動を検討できている。 | 児童の特性に分けてグループ分けをして行っているため継続しながら変化をお見つけいくようにしていく。 |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 9 | | 昼礼のミーティングでは話し合いをして活動に取り組んでいる。放課後デイは人数が多いので確認は出来ている。 | 児童発達に関して一人のスタッフで行う事が多いので共有までできていないのでお互いに確認ができるような配慮をしていく。 |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 5 | 4 | 週1回のミーティングで一週間を話しているため工夫や改善までには出来ていない。 | 夕方の送迎でじかんが短いので翌日でもすぐに確認や共有、工夫や改善ができるように調整をしていく。 |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 8 | 1 | 日々の記録はその日に記入をしている。 | 全体を見ての検証まではできていないのでお互いに確認をしながら支援の内容の改善にして次に繋げられるようにしていく。 |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 9 | | 定期的に見直しをしている。 | 個々のモニタが近づく前にはスタッフ間で話し、見直しを行えている。 |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。 | 9 | | 日々の支援に行かせるように活動にも変化をつけながら行っている。 | 毎日の活動にあわせながらガイドラインに合わせて支援を行っている。毎日の課題が出てくるので次に繋げていけるように工夫を行っている。 |
| | 25 | 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | 8 | 1 | 絵カードや写真を使い支援を行っている。SSTを取り入れ育てる力を身につけている。 | したい事や思っている事ができるよう、児童とコミュニケーションを取、選択できるような環境作りになれるよう工夫している。 |
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 9 | | 責任者や現場に入るスタッフも同席をしながら会議には参加している。 | 同じスタッフだけではなくローテーションをしながら会議に参加して解決までいけるように調整をしていく。 |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 8 | 1 | 学校や保育園などとの連携を行い、支援に繋げていくようにしている。 | 協力医療機関との連携などはできていないので少しずつ連携をしながら安心して支援が出来るようにしていく。 |
| | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | 9 | | 保護者も交えながらラインを使い共有を行っている。 | 送迎は保護者も分からない時があるので保護者が知った上での時間を共有してもらえるように工夫していくようにする。 |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | 9 | | 会議を設けながら情報の共有をしている。 | 子ども園や保育園からの移行の時には話し合いが出来ずに不安なまま就学をしているので、不安を抱えない様に何度も会議をしながら就学に取り組みできるようにしていく。 |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | 8 | 1 | 関係機関を交えての情報交換は行えている。 | 児が不安にならないように伝えられる所はすべて伝え戸惑う事がないように進めている。 |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | 7 | 2 | センターとの連携は出来ていない。どこで情報を取っていいのかが探せていない状況。センターが近くないので足を運ぶ事が出来ていない。 | 情報を聞き出しながらセンターと連携ができるように動いていくようにする。 |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。 | 8 | 1 | 児童館での活動は常に行っていたが、利用児童が増えてしまっただけで中々以前のように行けなくなっている。 | 参加できる時には児童館にも足を運ぶ事は出来るので児童館へ行き、地域との連携がとれるようにしていく。情報を探して行く。 |
| | 33 | (自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。 | 2 | 7 | 協議会までの参加には至っていない。 | 声がかかった事がないのと情報不足なので参加出来ていなかった。色んな方へ聞き出しながら参加できる時には参加していくようにする。 |
| | 34 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 9 | | 夕方の送迎の時には今日の活動の内容や過ごした内容を伝えるようにしている。 | 面談を数回設けながらゆっくりとした時間で話せるように工夫をしていく。 |
| | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 9 | | 研修案内やインスタ、ブログをアップしたりして情報の提供はしているが参加人数が少ない。 | 研修には毎年同じ内容だった事もあったのでいつもと違う研修を促しながら参加人数を増やせるように工夫していく。 |
| 関係機関や保護者との連携 | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 9 | | 契約時には話をしている。必要な時には口頭などで丁寧に伝えている。 | 変更があったりした時などは伝えていない事があるので書類と共に一緒に確認をしながら伝えるようにしていく。 |
| | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 9 | | 会議をしながら保護者の想いや入れてほしい内容を共有しながら確認をしている。 | 変化がない児童もいたりするので少しでも成長や可能性を引き出せるように工夫して行く必要がある。 |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。 | 9 | | 同意を得ている。 | 内容の変更が今の所ないので継続しながら続けていくようにする。 |
| | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 9 | | 夕方の送迎などでの相談はあったりするので都度スタッフ間でも共有をして同じ視点になるようにしている。 | その都度、助言は行えているが短い時間なので面談を数回組んでいながら改善できるようにしていく。 |

| | | | | | | |
|----------|--|--|---|---|---|---|
| 保護者への説明等 | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。 | 9 | | 保護者も交えての行事を組んでいるが参加率が少ないので保護者との交流までは結び付けていない。 | 保護者交流の内容を今後は工夫をしながら参加率をアップできるようにしていく。月に1回の開催は行っているが人数が集まる事が少ないので改善をしながら対策を考えていくようにする。 |
| | 41 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 9 | | 迅速な対応は行っている。 | その時にあったらその日での対応を心がけている。 |
| | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。 | 9 | | インスタやブログなどを活用しながら発信している。 | LINEなども活用しながら保護者には情報を徹底的に周知している。室内にも見える化しながら提示している。 |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 9 | | キャビネットの棚に入れて保管している。 | 鍵などは付けていないので鍵も閉める様にして保管をしていく。 |
| | 44 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 9 | | 手紙やLINE、送迎での口頭で伝達は常に行っている。 | 情報だけの発信だけでなく保護者の意見なども詳しく聞けるような環境が今後は必要なので工夫をしながら安心して情報を伝えられるようにしていく。 |
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 8 | 1 | 数回だけが保育園との交流をして招待や招待されている。 | 地域での行事には1回だけしか参加できていないので沢山の行事に参加できるように情報を取りにいくようにしていく。 |
| 非常時等の対応 | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 9 | | 研修を行いながらマニュアル作りを最新版にしている。訓練も実地出来ている。 | 感染症のシミュレーションと共に訓練は実地できているが児童のシミュレーションまで詳しく、細かくできていないので保護者にも確認をしながら進めて行けるようにしていく。 |
| | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 9 | | 月1回は行っている。 | 窓の開く場所が数か所决定着まっているのでルートなどの確認は毎回考えて動いていかないといけない。 |
| | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 | 8 | 1 | 処方箋を受け取りながら確認を行っている。 | 保管場所に困ったりするので、定着できる安全な場所の確保をしながら保管できるようにしていくようにする。 |
| | 49 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 8 | 1 | 契約時に確認をしながらスタッフに共有している、 | 毎年確認をしながらアレルギーに変化がないかを保護者に確認をしている。 |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 9 | | 環境を整えたりして、危険な場所はその都度、すぐに対応、修正を行っている。 | 利用児も成長したりしているのが今までになかった危険性が見えてきているので再度確認をしながら修繕できるようにしていく。 |
| | 51 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 9 | | 送迎の時などで共有したり、報告をしたりしている。 | 家族と同じ状況などもあったりするので同じ支援での取り組みになっているので隠さずに全部伝える様にしている。 |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 9 | | 行っている。その日での共有をしたりしてすぐに対策は考えて二度と起こらないように心がけている。 | 一か月後も再度、確認と共有をしながら同じ事を繰り返さないようにしている。 |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 8 | 1 | 年に2回の虐待研修を行っている。 | 怪しい行動が見られた時にはすぐに話し合いをしたり、勉強会をしながらスタッフ間の行動を振り返って、考えてもらうように行っているため継続が必要 |
| 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 9 | | 今の所、そのような場面は見られていないが怪しい時には保護者に相談をしたりして一緒に支援の内容を考えている。 | やむを得ない時には保護者も交えながら関係機関も交えながらいい方向性の支援を一緒に考えて児童が困らないような取り組みを行っていくようにする。 | |